



ジアスの認定書を授与された高野市長(中央)、ジラス本部責任者パルビス氏(右)、国際連合大学武内副学長(左)



6月16日、市役所で行われたジラスについての意見交換会

地域ワークショップ(意見交換会) 開催

市では、ジラスを市民の皆さんからご理解いただき、目的を共有するために次の日程で地域ワークショップを開催します。多数のご参加をお待ちしています。

- 両津地域 7月19日(火)
佐渡島開発センター 会議室
 - 国中地域 7月21日(木)
金井コミュニティセンター 大会議室
 - 相川地域 7月26日(火)
あいかわ開発総合センター 実習室
 - 南部地域 7月28日(木)
羽茂地区公民館 大会議室
- ※4会場とも時間は午後7時～9時
お問い合わせ 市役所農林水産課
生物多様性推進室 ☎63—3761

市ホームページ「トピックス」ジラス(GIAHS:世界重要農業遺産システム)もご覧ください。
<http://www.city.sado.niigata.jp/topics/gihas/index/index.shtml>

果、ジラスに認定。

○6月15日、FAO、国際連合大学、北陸農政局による島内視察(認証米圃場ほか)

○6月16日、佐渡市役所において、ジラス認定の認証式と意見交換会

選定の理由

○朱鷺と暮らす郷づくり認証制度による生きものを育む農法を農業生産システムに加えた体制をつくり、島全体で広げ、消費者との連携を果たしていること。

○消費者との連携から生物多様性保全型農業と農業経済が連動し、持続的な環境と農業の保全体制を作っていること。

ること。(ジラスにとって持続的が重要なポイント)

○金の歴史が佐渡の風景や文化を育み、農業生産活動とつながり、島の景観、自然、生物多様性に大きな影響を与えるとともに、農村コミュニティにより保全してきたこと。

ジラスに認定されたことにより:

- ・米をはじめとする佐渡産農産物のブランド化
- ・観光などへの活用
- ・子どもたちへの環境学習
- ・農地、自然景観の維持
- ・他の登録地域との知識や経験の交流
- ・持続的な農業、生きもの資源の利用

による農村活性化などが期待されます。

ジラスに認定されたことで、農業者の農法そのものへの制限は直接加えられません。しかし、生物多様性を著しく減少させない農業であることが重要となってきます。また、ジラスへの認定に際し、ジラス本部責任者パルビス氏から、「この遺産は過去のものではなく、未来に繋げていくもの。そして、佐渡の未来を担う若い世代がいろいろな面で幸せに満たされる形に導いていくことが大切。そのため、アクションプランを作り、短期的、長期的に取り組んで

行くことを期待している。」との提言をいただきました。

佐渡は、豊かな自然と歴史や文化を誇る島です。

今回、佐渡の環境保全型農業がジラスに認定されましたが、佐渡金銀山遺跡の世界遺産登録に向けた運動や、大地の遺産の豊かな島として世界ジオパーク認定を目指す取組も行われています。

これら佐渡3大資産が国際的に評価され、また、地域の財産としてその価値が広く共有されるよう、取り組んでまいります。